

2011年9月議会 2010年度決算の一部の認定に反対する討論 2011年9月29日

日本共産党 藤木くにあき

日本共産党の藤木くにあきでございます。

私は、議案第 145 号 2010 年度一般会計決算の認定、議案第 151 号 2010 年度後期高齢者医療特別会計決算の認定に反対の討論をおこないます。

まず、2010 年度一般会計決算の認定についてです。

決算の認定に反対する第一の理由は、株式会社ジュオン等の倒産、ならびに子会社であるグリーンケミカル株式会社の事実上の倒産と、それらの会社に対し、十分な審査をしないまま、補助金を交付してきたという、重大な問題のある決算だからです。

株式会社ジュオンの決算書によると、年間 10 億円の売り上げがありながら、純利益は、わずか 700 万円から 100 万円程度までしかありませんでした。

逆に、負債は、2006 年度が 6 億円、2008 年度が 9 億円、2009 年度は 10 億円とうなぎのぼりに増えつづけ、倒産した現在では約 18 億円だということです。

こうした、株式会社ジュオンの過去の決算状況を事前に確認し、信頼に足る会社かどうかを審査することは、たやすいことであり、それをおこたり、議会にその資料も示さず、株式会社ジュオンとその子会社に補助金を交付したことは、断じて許されることではありません。

同時に、議会の多数がその予算に賛成してきたことも、深く反省すべきことだと考えます。

決算の認定に反対する第二の理由は、これまた、大きな問題のあった、東城町の三楽荘にかかる決算が含まれているからです。

そもそも三楽荘の問題は、東城まちなか交流施設、通称えびす、総事業費 9,400 万円の建設との整合性に、大きな問題があったものです。

それは、東城まちなか交流施設の建設予定地と三楽荘は、道路をはさんだ近い場所にあり、両方の事業をやるのは、財政難のもと、不要、不急の建設事業になるからです。

したがって、私たちは、三楽荘にまちなか交流施設の機能をもたせ、まちなか交流施設の建設を凍結、再検討するよう、つよく求めてまいりました。

しかし、市長は、結果として、まちなか交流施設の建設は当初予算で、また、三楽荘の取得と修繕は補正予算で、議会の多数を確保し可決したことを理由に、両方の事業を強行する道を選択されました。このような決算は断じて認定することはできません。

決算の認定に反対する第三の理由は、庄原保育所の民営化の計画を推進しようとしてきた決算だからです。

市長は、庄原保育所の移転新築と同時に、これを民営化するとして議会に説明してこられました。

新たに40名近い保育職員となる庄原保育所で、保育職員の心をひとつにまとめ、庄原市の将来を担う子どもたちにより良い保育をおこなうことは、子どもたちのこと、保護者のみなさんや地域のみなさんの実情に精通した、そして、そうとう熟練した市の保育所長や市の保育職員でなければ、とうていできないことだと考えます。

40名近い、保育職員が、心をひとつに、まとまった保育職員集団になるには、1年や2年で簡単にできるものでは決してありません。

仮に、民営化先の保育職員が、6か月程度、庄原保育所で、いっしょに研修する期間を設けたとしても、200名の子どもたちの顔と名前が一致することさえむずかしいことでしょう。

教育民生常任委員会で、木造で新築された東城の小奴可保育所を視察しましたが、保育所長のお話では、ここは、職員に異動がなく、地域の実情もきちんと把握できているので、保育が安定しているとおっしゃっていました。

私は、このことは、真摯に受け止めるべき、貴重な提言だと思います。

また、市民がまちづくりの主人公となる、まちづくり基本条例を作成されているときでもあ

り、庄原保育所の民営化の計画を、凍結、再検討し、保護者のみなさん、市民のみなさん、保育職員のみなさんの声を改めてよく聞き、公設公営の庄原保育所の保育職員を増員して、安定した保育を維持、推進すべきことを、改めてつよく求めるものです。

次に、2010年度後期高齢者医療特別会計決算の認定についてです。

民主党政権は、高齢者を差別する、後期高齢者医療制度をただちに廃止すると公約していました。しかし、それに反して、2010年度も継続させたため、保険料が引き上げになった決算であり、これに対する抗議のため決算の認定に反対いたします。

一日も早い後期高齢者医療制度の廃止に、市長も強力にとりくまれるよう、改めてつよく求め、反対の討論といたします。